



Unified Manager REST API

Active IQ Unified Manager 9.8

NetApp

January 31, 2025

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-98/api-automation/concept-data-center-apis.html> on January 31, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Unified Manager REST API	1
データセンターの管理	1
プロキシアクセスを介して ONTAP API にアクセスする	5
管理タスクの実行	8
ユーザの管理	10
ジョブの表示	11
イベントとシステムの詳細の表示	11
ワークロードの管理	12

Unified Manager REST API

ここでは、Active IQ Unified Manager 用の REST API をカテゴリ別に示します。

Unified Manager インスタンスから、すべての REST API 呼び出しの詳細を含むオンラインドキュメントページを表示できます。このドキュメントでは、オンラインドキュメントの詳細については説明しません。このドキュメントに記載または説明されている各 API 呼び出しには、ドキュメントページで呼び出しを検索するために必要な情報のみが含まれています。特定の API 呼び出しを検索すると、入力パラメータ、出力形式、HTTP ステータスコード、要求処理タイプなど、その呼び出しのすべての詳細を確認できます。

ワークフロー内の各 API 呼び出しについて、ドキュメントページで検索するのに役立つ次の情報が含まれています。

- カテゴリ

ドキュメントページでは、機能的な関連領域またはカテゴリ別に API 呼び出しが分類されています。特定の API 呼び出しを検索するには、ページの一番下までスクロールし、該当する API カテゴリをクリックします。

- HTTP 動詞（呼び出し）

HTTP 動詞は、リソースに対して実行する操作を示します。各 API 呼び出しは、単一の HTTP 動詞を使用して実行されます。

- パス

パスは、呼び出しの実行時に操作が使用する特定のリソースを指定します。パス文字列がコア URL に追加され、リソースを識別する完全な URL が形成されます。

データセンターの管理

の REST API `datacenter` カテゴリによって、クラスタ、ノード、アグリゲート、ボリューム、LUNに関する情報が提供されます。データセンター内のファイル共有、名前空間、およびその他の要素。これらのAPIは、データセンターの設定の照会、追加、削除、変更に使えます。

これらのAPIのほとんどはクラスタをまたいだ集計値を提供する GET 呼び出しで、フィルタ、ソート、およびページ付けをサポートします。これらのAPIを実行すると、データベースからデータが返されます。したがって、新たに作成されたオブジェクトは、次の取得サイクルで検出されるまで応答に表示されません。

特定のオブジェクトの詳細を照会するには、そのオブジェクトの一意の ID を入力する必要があります。例：

```
curl -X GET "https://<hostname>/api/datacenter/cluster/clusters/4c6bf721-2e3f-11e9-a3e2-00a0985badbb" -H "accept: application/json" -H "Authorization: Basic <Base64EncodedCredentials>"
```



cURL コマンド、例、要求、および API への応答は、Swagger API インターフェイスで参照できます。Swagger にも記載されているとおり、結果を特定のパラメータでフィルタおよび順序付けすることができます。これらの API を使用して、クラスタ、ボリューム、Storage VM などの特定のストレージオブジェクトについての結果をフィルタリングできます。

HTTP 動詞	パス	説明
GET	<code>/datacenter/ cluster/clusters</code> <code>/datacenter/ cluster/clusters/{key}</code>	このメソッドを使用して、データセンター全体の ONTAP クラスタの詳細を表示できます。API は、クラスタの IPv4 アドレスや IPv6 アドレス、ノードの健全性、パフォーマンス容量、ハイアベイラビリティ（HA）ペアなどのノードに関する情報を返し、クラスタがオール SAN アレイかどうかを示します。
GET	<code>/datacenter/ cluster/nodes</code> <code>/datacenter/ cluster/nodes/{key}</code>	このメソッドを使用して、データセンター内のノードの詳細を表示できます。ノードのクラスタ、ノードの健全性、パフォーマンス容量、およびハイアベイラビリティ（HA）ペアに関する情報を表示できます。
GET	<code>/datacenter/ protocols/cifs/shares</code> <code>/datacenter/ protocols/cifs/shares/{key}</code>	このメソッドを使用して、データセンター内の CIFS 共有の詳細を表示できます。クラスタ、SVM、およびボリュームの詳細以外にも、アクセス制御リスト（ACL）に関する情報が返されます。
GET	<code>/datacenter/ protocols/nfs/export-policies</code> <code>/datacenter/ protocols/nfs/export-policies/{key}</code>	<p>このメソッドを使用して、サポートされている NFS サービスのエクスポートポリシーの詳細を表示できます。</p> <p>このメソッドを使用して、クラスタまたは Storage VM のエクスポートポリシーを照会し、NFS ファイル共有のプロビジョニングに使用できます。ワークロードでのエクスポートポリシーの割り当てと再利用の詳細については、「CIFS および NFS ファイル共有のプロビジョニング」を参照してください。</p>

HTTP 動詞	パス	説明
GET	/datacenter/ storage/aggr egates /datacenter/ storage/aggr egates/{key}	<p>このメソッドを使用して、データセンター内のすべてのアグリゲートまたは特定のアグリゲートを表示し、ワークロードのプロビジョニングや監視を行うことができます。クラスタとノードの詳細、使用済みパフォーマンス容量、使用可能なスペースと使用済みのスペース、Storage Efficiency などの情報が返されます。</p>
GET	/datacenter/ storage/luns /datacenter/ storage/luns /{key}	<p>このメソッドを使用して、データセンター全体のすべての LUN を表示できます。クラスタと SVM の詳細、QoS ポリシー、igroup など、LUN に関する情報を表示できます。</p>
GET	/datacenter/ storage/qos/ policies /datacenter/ storage/qos/ policies/{ke y}	<p>このメソッドを使用して、データセンター内のストレージオブジェクトに適用可能なすべての QoS ポリシーの詳細を表示できます。クラスタと SVM の詳細、固定またはアダプティブのポリシーの詳細、そのポリシーに該当するオブジェクトの数などの情報が返されます。</p>
GET	/datacenter/ storage/qtrees /datacenter/ storage/qtrees/{key}	<p>このメソッドを使用して、すべての FlexVol または FlexGroup ボリュームについて、データセンター全体の qtree の詳細を表示できます。クラスタと SVM の詳細、FlexVol ボリューム、エクスポートポリシーなどの情報が返されます。</p>
GET	/datacenter/ storage/volumes /datacenter/ storage/volumes/{key}	<p>このメソッドを使用して、データセンター内のすべてのボリュームを表示できます。SVM やクラスタの詳細、QoS ポリシーやエクスポートポリシーなど、ボリュームのタイプがであるかどうかを示す情報 `read-write, data-protection, or load-sharing` が返されます。</p> <p>FlexVol および FlexClone ボリュームについては、それぞれのアグリゲートに関する情報を表示できます。FlexGroup ボリュームの場合、コンスティチュエントアグリゲートのリストが表示されます。</p>

HTTP 動詞	パス	説明
GET POST DELETE PATCH	/datacenter/ protocols/sa n/igroups /datacenter/ protocols/sa n/igroups/{k ey}	<p>特定の LUN ターゲットへのアクセスを許可されたイニシエータグループ（igroup）を割り当てることができます。既存の igroup がある場合は、その igroup を割り当てることができます。igroup を作成して、LUN に割り当てすることもできます。</p> <p>これらのメソッドを使用して、igroup の照会、作成、削除、および変更を実行できます。</p> <p>注意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> • POST：igroupの作成中に、アクセスを割り当てるStorage VMを指定できます。 • DELETE：特定のigroupを削除するには、入力パラメータとしてigroupキーを指定する必要があります。すでに LUN に割り当てられている igroup は削除できません。 • PATCH：特定のigroupを変更するには、入力パラメータとしてigroupキーを指定する必要があります。また、更新するプロパティとその値を入力する必要があります。

HTTP 動詞	パス	説明
GET	/datacenter/ svm/svms	これらのメソッドを使用して、Storage Virtual Machine（Storage VM）を表示、作成、削除、および変更できます。
POST	/datacenter/ svm/svms/{key}	<p>注意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> POST：作成するStorage VMオブジェクトを入力パラメータとして指定する必要があります。カスタムの Storage VM を作成して、必要なプロパティを割り当てることができます。 <div>  <p>環境で SLO ベースのワークロードプロビジョニングを有効にしている場合、Storage VM を作成する際には、CIFS または SMB、NFS、FCP など、LUN とファイル共有のプロビジョニングに必要なすべてのプロトコルがこの環境でサポートされていることを確認してください。および iSCSI などです。Storage VM が必要なサービスをサポートしていないと、プロビジョニングワークフローが失敗することがあります。対応するワークロードタイプのサービスも有効にすることを推奨します。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> DELETE：特定のStorage VMを削除するには、Storage VMキーを指定する必要があります。 <div>  <p>環境で SLO ベースのワークロードプロビジョニングを有効にしている場合、ストレージワークロードがプロビジョニングされている Storage VM は削除できません。CIFS または SMB サーバが設定されている Storage VM を削除すると、ローカルの Active Directory 設定に加えて CIFS サーバまたは SMB サーバも削除されます。ただし、CIFS サーバまたは SMB サーバの名前は Active Directory 設定に残っているため、Active Directory サーバから手動で削除する必要があります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> PATCH：特定のStorage VMを変更するには、Storage VMキーを指定する必要があります。また、更新するプロパティとその値を入力する必要があります。
DELETE		
PATCH		

プロキシアクセスを介して **ONTAP API** にアクセスする

ゲートウェイ API を使用すると、Active IQ Unified Manager クレデンシャルを使用して ONTAP REST API を実行し、ストレージオブジェクトを管理するという利点が得られます。これらの API は、Unified Manager Web UI から API ゲートウェイ機能を有効にすると使用できます。

Unified Manager REST API では、ONTAP クラスタである Unified Manager データソースで実行する一連の操作のみがサポートされます。その他の機能は、ONTAP API を使用して利用できます。ゲートウェイ API を使用すると、各データセンタークラスタに個別にログインしなくても、ONTAP クラスタですべての API 要求


をトンネリングするパススルーインターフェイスに Unified Manager を使用できます。単一の管理ポイントとして機能し、Unified Manager インスタンスで管理される ONTAP クラスタ全体で API を実行できます。API ゲートウェイ機能を使用すると、個別にログインしなくても、複数の ONTAP クラスタを一元的に管理できます。ゲートウェイ API を使用すると、ONTAP REST API 処理を実行して Unified Manager にログインしたまま ONTAP クラスタを管理できます。



すべてのユーザは、を使用してクエリを実行できます GET 操作。アプリケーション管理者は、すべての ONTAP REST 処理を実行できます。

ゲートウェイは、ヘッダーと本文の形式を ONTAP API と同じにすることで、API 要求をトンネリングするプロキシとして機能します。Unified Manager のクレデンシャルを使用して特定の処理を実行することで、個々のクラスタのクレデンシャルを渡すことなく ONTAP クラスタにアクセスして管理することができます。クラスタ認証とクラスタ管理は引き続き管理されますが、API 要求は特定のクラスタで直接実行されます。API から返される応答は、対応する ONTAP REST API を ONTAP から直接実行した場合と同じです。

HTTP 動詞	パス (URL)	説明
GET	/gateways	<div><p>この取得メソッドは、ONTAP REST 呼び出しをサポートする Unified Manager で管理されているすべてのクラスタのリストを取得します。クラスタの詳細を確認し、クラスタ UUID または Universal Unique Identifier (UUID) に基づいて他の方法を実行するように選択できます。</p><div><p>ゲートウェイ API は、ONTAP 9.5 以降でサポートされているクラスタのみを取得し、HTTPS を使用して Unified Manager に追加します。</p></div></div>

HTTP 動詞	パス (URL)	説明
GET POST DELETE PATCH OPTIONS (Swaggerでは提供されていません) HEAD (Swaggerでは提供されていません)	<div> <div>/gateways/{uuid}/{path}</div> <div>  <p> の値 {uuid} REST 処理を実行するクラスタUUIDに置き換える必要があります。また、UUID が ONTAP 9.5 以降でサポートされているクラスタのものであること、および Unified Manager に HTTPS 経由で追加されていることを確認してください。 {path} ONTAP REST URLに置き換える必要があります。削除する必要があります /api/ URLから。 </p> </div> </div>	<p>これは単一ポイントのプロキシ API で、POST、削除、パッチ処理がサポートされ、すべての ONTAP REST API に対応しています。ONTAP でサポートされている場合は、API に制限は適用されません。トンネリングまたはプロキシ機能をディセーブルにすることはできません。</p> <p>。OPTIONS メソッドは、ONTAP REST APIでサポートされているすべての処理を返します。たとえば、ONTAP APIでのみがサポートされている場合などです GET を実行します OPTIONS このゲートウェイAPIの戻り値を使用するメソッド GET をクリックします。Swagger ではサポートされていませんが、他の API ツールで実行することもできます。</p> <p>。OPTIONS メソッドは、リソースが使用可能かどうかを決定します。この処理を使用すると、HTTP 応答ヘッダー内のリソースに関するメタデータを表示できます。Swagger ではサポートされていませんが、他の API ツールで実行することもできます。</p>

API ゲートウェイトンネリングの概要

ゲートウェイ API を使用すると、Unified Manager を介して ONTAP オブジェクトを管理できます。Unified Manager はクラスタと認証の詳細を管理し、ONTAP REST エンドポイントに要求をリダイレクトします。ゲートウェイ API は、ヘッダーおよび応答本文内の Engine of Application State (HATEOAS) リンクとして、URL および Hypermedia を API ゲートウェイベース URL で変換します。ゲートウェイ API は、ONTAP REST URL を追加して必要な ONTAP REST エンドポイントを実行するプロキシのベース URL として機能します。

この例では、ゲートウェイAPI (プロキシベースURL) は次のようになります。 /gateways/{uuid}/

取得されるONTAP APIは次のとおりです。 /storage/volumes。 の値としてONTAP API REST URLを追加する必要があります path パラメータ



パスを追加する際には、「」が削除されていることを確認してください" symbol at the beginning of the URL. For the API ` /storage/volumes、を追加します storage/volumes。

追加されるURLは次のとおりです。 /gateways/{uuid}/storage/volumes

を実行している GET 処理の場合、生成されるURLは次のとおりです。

GEThttps://<hostname>/api/gateways/<cluster_UUID>/storage/volumes

。 /api ONTAP REST URLのタグが付加されたURLから削除され、ゲートウェイAPIのタグは保持されます。

- cURL コマンドの例 *

```
curl -X GET "https://<hostname>/api/gateways/1cd8a442-86d1-11e0-ae1c-9876567890123/storage/volumes" -H "accept: application/hal+json" -H "Authorization: Basic <Base64EncodedCredentials>"
```

API は、クラスタ内のストレージボリュームのリストを返します。応答形式は、ONTAP から同じ API を実行した場合と同じです。ONTAP REST ステータスコードが返されます。

API スコープを設定します

すべての API には、クラスタのスコープ内にコンテキストセットがあります。Storage VM ベースで動作する API のスコープはクラスタでもあります。つまり、API 処理は管理対象クラスタ内の特定の Storage VM に対して実行されます。を実行すると /gateways/{uuid}/{path} APIを使用して、処理を実行するクラスタのクラスタUUID (Unified ManagerデータソースUUID) を入力していることを確認してください。そのクラスタ内の特定のStorage VMにコンテキストを設定する場合は、Storage VMキーをとして入力します X-Dot-SVM-UUID を使用するStorage VMの名前 X-Dot-SVM-Name パラメータパラメータが文字列ヘッダーのフィルタとして追加され、そのクラスタ内の Storage VM の範囲内で処理が実行されます。

- cURL コマンドの例 *

```
curl -X GET "https://<hostname>/api/gateways/e4f33f90-f75f-11e8-9ed9-00a098e3215f/storage/volume" -H "accept: application/hal+json" -H "X-Dot-SVM-UUID: d9c33ec0-5b61-11e9-8760-00a098e3215f" -H "Authorization: Basic <Base64EncodedCredentials>"
```

ONTAP REST APIの使用方法的詳細については、を参照してください ["ONTAP REST API の自動化"](#)

管理タスクの実行

のAPIを使用できます administration バックアップ設定を変更するカテゴリで、バックアップファイル情報とクラスタ証明書を確認し、ONTAP クラスタをActive IQ Unified Manager データソースとして管理する。



これらの処理を実行するには、アプリケーション管理者ロールが必要です。また、Unified Manager Web UI を使用してこれらの設定を行うこともできます。

HTTP 動詞	パス	説明
GET PATCH	/admin/backup-settings /admin/backup-settings	<p>を使用できます GET デフォルトでUnified Managerで設定されているバックアップスケジュールの設定を表示する方法。次のことを確認できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュールが有効か無効か • スケジュールされたバックアップの頻度（日単位または週単位） • バックアップの時刻 • アプリケーションに保持するバックアップファイルの最大数 <p>バックアップの時刻はサーバのタイムゾーンにあります。</p> <p>データベースのバックアップ設定は、 Unified Manager ではデフォルトで有効になっており、バックアップスケジュールを作成することはできません。ただし、を使用することはできます PATCH メソッドを使用して、デフォルト設定を変更します。</p>
GET	/admin/backup-file-info	<p>バックアップダンプファイルは、Unified Manager のバックアップスケジュールが変更されるたびに生成されます。このメソッドを使用すると、変更したバックアップ設定に従ってバックアップファイルが生成されているかどうか、およびファイルの情報が変更した設定と一致するかどうかを確認できます。</p>
GET	/admin/datasource-certificate	<p>このメソッドを使用して、信頼ストアからデータソース（クラスタ）証明書を表示できます。ONTAP クラスタを Unified Manager データソースとして追加する前に、証明書を検証する必要があります。</p>

HTTP 動詞	パス	説明
GET	/admin/datasources/clusters	使用できます GET Unified Managerで管理されているデータソース（ONTAP クラスタ）の詳細を取得する方法。 新しいクラスタを Unified Manager にデータソースとして追加することもできます。クラスタを追加するには、ホスト名、ユーザ名、パスワードが必要です。 Unified Manager のデータソースとして管理されるクラスタを変更および削除するには、 ONTAP クラスタキーを使用します。
POST	/admin/datasources/clusters/{key}	
PATCH		
DELETE		

ユーザの管理

のAPIを使用できます security Active IQ Unified Manager で選択したクラスタオブジェクトへのユーザアクセスを制御するカテゴリ。ローカルユーザまたはデータベースユーザを追加できます。また、認証サーバに属するリモートユーザやリモートグループを追加することもできます。ユーザに割り当てたロールの権限に基づいて、ストレージオブジェクトを管理したり、Unified Manager でデータを表示したりできます。



これらの処理を実行するには、アプリケーション管理者ロールが必要です。また、Unified Manager Web UI を使用してこれらの設定を行うこともできます。

のAPI security カテゴリ：を使用します users パラメータ。はユーザ名であり、は含まれません key ユーザエンティティの一意の識別子としてパラメータを指定します。

HTTP 動詞	パス	説明
GET	/security/users	<p>これらのメソッドを使用して、ユーザの詳細を取得したり、Unified Manager に新しいユーザを追加したりできます。</p> <p>ユーザのタイプに基づいて、ユーザに特定のロールを追加できます。ユーザを追加する際には、ローカルユーザ、メンテナンスユーザ、およびデータベースユーザのパスワードを指定する必要があります。</p>
POST	/security/users	

HTTP 動詞	パス	説明
GET	/security/users/{name}	。 GET メソッドを使用すると、名前、Eメールアドレス、ロール、認証タイプなど、ユーザのすべての詳細を取得できます。。 PATCH メソッドを使用すると、詳細を更新できます。。 DELETE メソッドを使用すると、ユーザを削除できます。
PATCH		
DELETE		

ジョブの表示

を使用できます jobs のAPI management-server 非同期操作の実行の詳細を表示するカテゴリ。

Active IQ Unified Manager では、リソースの追加や変更などの処理は、同期および非同期の API 呼び出しによって実行されます。非同期で実行されるようにスケジュールされている呼び出しは、その呼び出しに対して作成されたジョブオブジェクトによって追跡できます。各ジョブオブジェクトには、識別用の一意のキーがあります。各ジョブオブジェクトはジョブオブジェクト URI を返し、ジョブの進捗状況を確認および追跡できます。この API を使用して、各実行の詳細を取得できます。

この API を使用して、履歴データを含む、データセンターのすべてのジョブオブジェクトを照会できます。デフォルトですべてのジョブを照会すると、Web UI および API インターフェイスからトリガーされた最新 20 件のジョブの詳細が返されます。組み込みのフィルタを使用して、特定のジョブを表示します。ジョブキーを使用して特定のジョブの詳細を照会し、リソースに対して次の処理セットを実行することもできます。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス	説明
management-server	取得	/management-server/jobs	すべてのジョブのジョブ詳細を返します。ソート順が指定されていない場合は、最後に送信されたジョブオブジェクトが先頭に返されます。
management-server	取得	/management-server/jobs/{key} ジョブオブジェクトのジョブキーを入力して、そのジョブの具体的な詳細を表示します。	特定のジョブオブジェクトの詳細を返します。

イベントとシステムの詳細の表示

。 events および system のAPI management-server カテゴリを使用すると、データセンター内の監視対象クラスタに対して生成されたイベントを取得し、Active IQ

Unified Manager 環境内のインスタンスの詳細をそれぞれ表示できます。

イベントを表示します

を使用します `/management-server/events` APIを使用して、履歴データなど、データセンター内のイベントを照会できます。名前、インパクトレベル、インパクトエリア、重大度などの組み込みフィルタを使用します。特定のイベントを表示するには、状態、リソース名、およびリソースタイプを指定します。リソースタイプと領域パラメータは、イベントが発生したストレージオブジェクトに関する情報を返し、影響領域は、可用性、容量、構成、セキュリティなど、イベントが発生した問題に関する情報を返します。保護とパフォーマンス：

また、イベントキーを使用して特定のイベントの詳細を照会し、リソースに対して次の処理を実行することもできます。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス	説明
management-server	取得	<code>/management-server/events</code>	応答の本文は、そのデータセンター内の照会されたイベントのイベントの詳細で構成されます。
management-server	取得	<code>/management-server/events/{key}</code>	特定のイベントを照会する場合は、このAPIを実行します。詳細を表示するジョブのイベントキーを入力します。応答の本文は、そのイベントの詳細で構成されます。

システムの詳細の表示

を使用します `/management-server/system` APIを使用して、インスタンス固有の詳細情報をUnified Manager環境で照会できます。API から返される製品とサービスに関する情報には、システムにインストールされている Unified Manager のバージョン、UUID、ベンダー名、ホスト OS、名前、概要、および Unified Manager インスタンスで実行されているサービスのステータス。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス	説明
management-server	取得	<code>/management-server/system</code>	この API を実行するために入力パラメータは必要ありません。デフォルトでは、現在の Unified Manager インスタンスのシステムの詳細が返されます。

ワークロードの管理

ここで説明する API は、ストレージワークロードの表示、LUN とファイル共有の作

成、パフォーマンスサービスレベルとストレージ効率化ポリシーの管理、ストレージワークロードに対するポリシーの割り当てなど、ストレージ管理のさまざまな機能に対応しています。

ストレージワークロードの表示

ここに記載されている API を使用すると、データセンター内のすべての ONTAP クラスタのストレージワークロードをまとめて表示できます。また、Active IQ Unified Manager 環境でプロビジョニングされているストレージワークロードの数と、その容量とパフォーマンス（IOPS）の統計情報も表示されます。

ストレージワークロードを表示します

データセンター内のすべてのクラスタのすべてのストレージワークロードを表示するには、次のメソッドを使用します。特定の列で応答をフィルタリングする方法については、Unified Manager インスタンスで使用可能な API のリファレンスドキュメントを参照してください。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	/storage-provider/workloads

ストレージワークロードの概要を表示します

使用済み容量、使用可能容量、使用済み IOPS、使用可能 IOPS、各パフォーマンスサービスレベルで管理されているストレージワークロードの数を評価するには、次のメソッドを使用します。任意の LUN、NFS ファイル共有、または CIFS 共有のストレージワークロードを表示できます。この API は、ストレージワークロードの概要、Unified Manager でプロビジョニングされたストレージワークロードの概要、データセンターの概要、データセンターの合計、使用済み、使用可能なスペースと IOPS の概要を、割り当てられたパフォーマンスサービスレベル別に表示します。この API の応答として受信した情報を使用して、Unified Manager UI のダッシュボードにデータが表示されます。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	/storage-provider/workloads-summary

アクセスエンドポイントの管理

Storage Virtual Machine（SVM）、LUN、およびファイル共有のプロビジョニングに必要なアクセスエンドポイントまたは論理インターフェイス（LIF）を作成する必要があります。Active IQ Unified Manager 環境内の SVM、LUN、またはファイル共有のアクセスエンドポイントを表示、作成、変更、および削除できます。

アクセスエンドポイントを表示します

Unified Manager 環境のアクセスエンドポイントのリストを表示するには、次のメソッドを使用します。特定の SVM、LUN、またはファイル共有のアクセスエンドポイントのリストを照会するには、SVM、LUN、

またはファイル共有の一意の識別子を入力する必要があります。一意のアクセスエンドポイントキーを入力して、特定のアクセスエンドポイントの詳細を取得することもできます。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	/storage-provider/access-endpoints /storage-provider/access-endpoints/{key}

アクセスエンドポイントを追加する

カスタムのアクセスエンドポイントを作成して、必要なプロパティを割り当てることができます。作成するアクセスエンドポイントの詳細を、入力パラメータとして指定する必要があります。この API、または System Manager または ONTAP CLI を使用して、各ノードにアクセスエンドポイントを作成できます。アクセスエンドポイントの作成では、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方がサポートされます。



LUN とファイル共有をプロビジョニングするためには、SVM にノードあたりの最小アクセスエンドポイント数を設定する必要があります。SVM には、ノードごとに少なくとも 2 つのアクセスエンドポイントを設定する必要があります。1 つは CIFS プロトコルおよび / または NFS プロトコルをサポートし、もう 1 つは iSCSI プロトコルまたは FCP プロトコルをサポートします。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	投稿 (Post)	/storage-provider/access-endpoints

アクセスエンドポイントを削除する

特定のアクセスエンドポイントを削除するには、次のメソッドを使用します。特定のアクセスエンドポイントを削除するには、入力パラメータとしてアクセスエンドポイントキーを指定する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	削除	/storage-provider/access-endpoints/{key}

アクセスエンドポイントを変更します

アクセスエンドポイントを変更し、そのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。特定のアクセスエンドポイントを変更するには、アクセスエンドポイントキーを指定する必要があります。また、更新するプロパティとその値を入力する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	パッチ	/storage-provider/access-endpoints/{key}

Active Directory マッピングの管理

ここに記載された API を使用して、SVM 上の CIFS 共有のプロビジョニングに必要な SVM の Active Directory マッピングを管理できます。ONTAP を備えた SVM をマッピングするには、Active Directory マッピングを設定する必要があります。

Active Directory マッピングを表示します

SVM の Active Directory マッピングの設定の詳細を表示するには、次のメソッドを使用します。SVM の Active Directory マッピングを表示するには、SVM キーを入力する必要があります。特定のマッピングの詳細を照会するには、マッピングキーを入力する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	/storage-provider/active-directories-mappings /storage-provider/active-directories-mappings/{key}

Active Directory マッピングを追加します

SVM に Active Directory マッピングを作成するには、次のメソッドを使用します。マッピングの詳細を入力パラメータとして指定する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	投稿（Post）	/storage-provider/active-directories-mappings

ファイル共有の管理

を使用できます /storage-provider/file-shares データセンター環境内のCIFSおよびNFSファイル共有ボリュームを表示、追加、変更、削除するためのAPI。

ファイル共有ボリュームをプロビジョニングする前に、SVM が作成され、サポートされるプロトコルでプロビジョニングされていることを確認します。プロビジョニング中にパフォーマンスサービスレベル（PSL）またはストレージ効率化ポリシー（SEP）を割り当てる場合は、ファイル共有を作成する前に PSL または SEP を作成する必要があります。

ファイル共有を表示します

Unified Manager 環境で使用可能なファイル共有ボリュームを表示するには、次のメソッドを使用します。Active IQ Unified Manager のデータソースとして ONTAP クラスタを追加すると、それらのクラスタのストレージワークロードが Unified Manager インスタンスに自動的に追加されます。この API は、Unified Manager インスタンスに自動および手動で追加されたファイル共有を取得します。特定のファイル共有の詳細を表示するには、ファイル共有キーを指定してこの API を実行します。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	/storage-provider/file-shares /storage-provider/file-shares/{key}

ファイル共有を追加

SVM に CIFS および NFS ファイル共有を追加するには、次のメソッドを使用します。作成するファイル共有の詳細を入力パラメータとして指定する必要があります。この API を使用して FlexGroup ボリュームを追加することはできません。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	投稿（Post）	/storage-provider/file-shares



アクセス制御リスト（ACL）パラメータまたはエクスポートポリシーパラメータのどちらを指定するかに応じて、CIFS 共有または NFS ファイル共有が作成されます。ACL パラメータの値を指定しない場合、CIFS 共有は作成されず、デフォルトで NFS 共有が作成され、すべてのアクセスが提供されます。

データ保護ボリュームの作成：SVMにファイル共有を追加する場合、デフォルトでマウントされるボリュームのタイプは `rw`（読み取り/書き込み）です。データ保護（DP）ボリュームを作成する場合は、`dp` を指定します `type` パラメータ

ファイル共有を削除します

特定のファイル共有を削除するには、次のメソッドを使用します。特定のファイル共有を削除するには、入力パラメータとしてファイル共有キーを入力する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	削除	/storage-provider/file-shares/{key}

ファイル共有を変更する

ファイル共有を変更し、そのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。

特定のファイル共有を変更するには、ファイル共有キーを指定する必要があります。また、更新するプロパティとその値を入力する必要があります。



この API の 1 回の呼び出しで更新できるプロパティは 1 つだけです。更新が複数ある場合は、この API を何度でも実行する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	パッチ	/storage-provider/file-shares/{key}

LUN の管理

使用できます /storage-provider/luns データセンター環境内のLUNを表示、追加、変更、削除するためのAPI。

LUN をプロビジョニングする前に、SVM が作成され、サポートされるプロトコルでプロビジョニングされていることを確認してください。プロビジョニング中にパフォーマンスサービスレベル（PSL）またはストレージ効率化ポリシー（SEP）を割り当てる場合は、LUN を作成する前に PSL または SEP を作成する必要があります。

LUN を表示します

Unified Manager 環境の LUN を表示するには、次のメソッドを使用します。Active IQ Unified Manager のデータソースとして ONTAP クラスタを追加すると、それらのクラスタのストレージワークロードが Unified Manager インスタンスに自動的に追加されます。この API は、Unified Manager インスタンスに自動および手動で追加されたすべての LUN を取得します。特定の LUN の詳細を表示するには、LUN キーを指定してこの API を実行します。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	/storage-provider/luns /storage-provider/luns/{key}

LUN を追加します

SVM に LUN を追加するには、次のメソッドを使用します。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	投稿（Post）	/storage-provider/luns



cURL要求で、オプションのパラメータの値を指定する場合 volume_name_tag 入力では、この値に基づいてLUNの作成時にボリューム名が付けられます。このタグにより、ボリュームを簡単に検索できます。要求にボリュームキーを指定した場合、このタギングはスキップされます。

LUN を削除します

特定の LUN を削除するには、次のメソッドを使用します。特定の LUN を削除するには、LUN キーを指定する必要があります。



ONTAP でボリュームを作成し、そのボリュームで Unified Manager を使用して LUN をプロビジョニングした場合、この API を使用してすべての LUN を削除すると、ボリュームも ONTAP クラスタから削除されます。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	削除	/storage-provider/luns/{key}

LUNs を変更する

LUN を変更してそのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。特定の LUN を変更するには、LUN キーを指定する必要があります。また、更新する LUN プロパティとその値を入力する必要があります。この API を使用して LUN アレイを更新する場合は 'API の使用に関する推奨事項を確認する必要があります



この API の 1 回の呼び出しで更新できるプロパティは 1 つだけです。更新が複数ある場合は、この API を何度でも実行する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	パッチ	/storage-provider/luns/{key}

パフォーマンスサービスレベルの管理

Active IQ Unified Manager でストレージプロバイダ API を使用して、パフォーマンスサービスレベルを表示、作成、変更、および削除できます。

パフォーマンスサービスレベルを表示します

ストレージワークロードに割り当てる際にパフォーマンスサービスレベルを表示するには、次のメソッドを使用します。この API は、システム定義およびユーザ作成のすべてのパフォーマンスサービスレベルを表示し、すべてのパフォーマンスサービスレベルの属性を取得します。特定のパフォーマンスサービスレベルを照会する場合は、パフォーマンスサービスレベルの一意の ID を入力して詳細を取得する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	/storage-provider/performance-service-levels /storage-provider/performance-service-levels/{key}

パフォーマンスサービスレベルを追加

システム定義のパフォーマンスサービスレベルがストレージワークロードに必要なサービスレベル目標（SLO）を満たしていない場合は、次のメソッドでカスタムパフォーマンスサービスレベルを作成し、ストレージワークロードに割り当てることができます。作成するパフォーマンスサービスレベルの詳細を入力します。IOPS プロパティには、有効な値の範囲を入力してください。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	投稿（Post）	/storage-provider/performance-service-levels

パフォーマンスサービスレベルを削除します

特定のパフォーマンスサービスレベルを削除するには、次のメソッドを使用します。ワークロードに割り当てられている場合、または他に使用可能なパフォーマンスサービスレベルがない場合、そのパフォーマンスサービスレベルは削除できません。特定のパフォーマンスサービスレベルを削除するには、パフォーマンスサービスレベルの一意の ID を入力パラメータとして指定する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	削除	/storage-provider/performance-service-levels/{key}

パフォーマンスサービスレベルの変更

パフォーマンスサービスレベルを変更してそのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。システム定義のパフォーマンスサービスレベル、またはワークロードに割り当てられているパフォーマンスサービスレベルは変更できません。特定のパフォーマンスサービスレベルを変更するには、の一意の ID を指定する必要があります。また、更新する IOPS プロパティと有効な値も入力する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	パッチ	/storage-provider/performance-service-levels/{key}

パフォーマンスサービスレベルに基づくアグリゲート機能の表示

パフォーマンスサービスレベルに基づいてアグリゲート機能を照会するには、次のメソッドを使用します。この API は、データセンターで使用可能なアグリゲートのリストを返し、それらのアグリゲートでサポート可能なパフォーマンスサービスレベルに関する機能を示します。ボリュームでワークロードをプロビジョニングする際に、特定のパフォーマンスサービスレベルをサポートするアグリゲートの機能を表示し、その機能に基づいてワークロードをプロビジョニングできます。アグリゲートを指定できるのは、API を使用してワークロードをプロビジョニングする場合のみです。この機能は Unified Manager Web UI では使用できません。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	<code>/storage-provider/aggregate-capabilities</code> <code>/storage-provider/aggregate-capabilities/{key}</code>

ストレージ効率化ポリシーの管理

ストレージプロバイダ API を使用して、ストレージ効率化ポリシーを表示、作成、変更、および削除できます。

次の点に注意してください。



- Unified Manager でワークロードを作成する場合、ストレージ効率化ポリシーの割り当ては必須ではありません。
- ポリシーが割り当てられたあとで、ワークロードからストレージ効率化ポリシーの割り当てを解除することはできません。
- 重複排除や圧縮など、ONTAP で指定されたストレージ設定がワークロードに含まれている場合、Unified Manager でストレージワークロードを追加するときに適用するストレージ効率化ポリシーの設定で、その設定を上書きすることができます。

ストレージ効率化ポリシーを表示します

ストレージワークロードに割り当てる前にストレージ効率化ポリシーを表示するには、次のメソッドを使用します。この API は、システム定義およびユーザ作成のすべてのストレージ効率化ポリシーを表示し、すべてのストレージ効率化ポリシーの属性を取得します。特定のストレージ効率化ポリシーを照会するには、ポリシーの一意の ID を入力して詳細を取得する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	取得	<code>/storage-provider/storage-efficiency-policies</code> <code>/storage-provider/storage-efficiency-policies/{key}</code>

ストレージ効率化ポリシーを追加します

システム定義のポリシーがストレージワークロードのプロビジョニング要件を満たしていない場合は、次のメソッドでカスタムのストレージ効率化ポリシーを作成し、ストレージワークロードに割り当てることができます。作成するストレージ効率化ポリシーの詳細を入力パラメータとして指定します。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	投稿（Post）	/storage-provider/storage-efficiency-policies

ストレージ効率化ポリシーを削除します

特定のストレージ効率化ポリシーを削除するには、次のメソッドを使用します。ワークロードに割り当てられている場合、または他に使用可能なストレージ効率化ポリシーがない場合、そのストレージ効率化ポリシーは削除できません。特定のストレージ効率化ポリシーを削除するには、ストレージ効率化ポリシーの一意の ID を入力パラメータとして指定する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	削除	/storage-provider/storage-efficiency-policies/{key}

ストレージ効率化ポリシーの変更

ストレージ効率化ポリシーを変更し、そのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。システム定義のストレージ効率化ポリシー、またはワークロードに割り当てられているストレージ効率化ポリシーは変更できません。特定のストレージ効率化ポリシーを変更するには、ストレージ効率化ポリシーの一意の ID を指定する必要があります。また、更新するプロパティとその値を指定する必要があります。

カテゴリ	HTTP 動詞	パス
ストレージプロバイダ	パッチ	/storage-provider/storage-efficiency-policies/{key}

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。